

事業区分	文化芸術事業		鑑賞事業		
事業名	劇団四季ミュージカル「ユタと不思議な仲間たち」				
目的・内容	<p>倉吉まちづくり協議会と共催により本事業を実施する。倉吉まちづくり協議会は、市民に上質な文化を提供する機会として、劇団四季の公演を過去3回招致し、そして平成18年度には「コーラスライン」を当財団と共催にて開催している。幅広い年齢層への舞台芸術体験の貴重な機会であるため、今年度も共催にて劇団四季の公演を開催するとともに、財団友の会の会員数拡大ならびに鑑賞者の顧客化を図る。</p> <p>【使命】「文化人口の拡大とレベルアップ」、「子どもの文化芸術活動の推進」</p> <p>【事業の柱】「男性の鑑賞者拡大と夫婦や家族等で鑑賞できる機会の提供」、「親と子が共に育つための文化芸術による体験機会の提供」</p>				
開催日時	平成20年8月14日(木) 開演18:30				
会場	倉吉未来中心 大ホール				
入場料・参加費 (友の会)	S席 6,300円	A席 5,250円	B席 4,200円	C席 3,150円	
集客状況	入場者数 691名	設定席数 1,489席	集客率 46.4%		
事業費状況	予算額	収入 100,000円	支出 360,000円	収支比率 27.8%	
	決算額	収入 0円	支出 312,240円	収支比率 0%	
来場者アンケート (主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本当に良かったです。今回は子どもたちと観られて本当にうれしかった。また倉吉に来て下さいね。感動をありがとうございました。</li> <li>・オリジナル内容でありながらミュージカルの風格を保っていたのは素晴らしいと言わざるを得ない。</li> <li>・地方にいるとなかなか本物、本場の舞台に触れることが少ない。ぜひ、劇団四季等のミュージカル、バレエ、クラシック、芝居の各ジャンルを年に1回ずつ行って欲しい。本物に触れる機会を作って下さい。</li> <li>・私は四季が好きなので、年に1回ぐらいの割合で文化振興財団さんは四季を鳥取県に呼んでくれるので有難い。今度は鳥取市であるとうれしいですが・・・</li> <li>・とても素晴らしい企画です。四季は遠くへ行かないと見られないので、地方に住んでいると交通費等料金が高くなりますので、このように県内で見る事ができてとてもうれしいです。もっともっとこのような芸術鑑賞ができるようにし欲しいです。</li> </ul>				
1次評価 (内部)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めてミュージカルを鑑賞された方が30%で、親子連れも多数であったことから、次世代の鑑賞者開発に繋げることはできた。</li> <li>・アンケートの記述から、子どもたちが公演内容に非常に満足しており、この公演の主旨(生命の大切さ等)が十分伝わったのではないと思われる。</li> <li>・家族内で公演の主旨についてもう一度考えてみるよい機会を提供できたのではないと思われる。</li> <li>・収支については単独で実施するよりも抑えることができ、共催したメリットはあった。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共催先が主となって動いた公演であったが、印刷物(チラシ、ポスター等)の配布活動や販促活動に於いて、もっと当財団が主導権を持って進行するべきであった。</li> <li>・公演日がお盆であり、当初から集客は苦戦されることが予想され、広報、営業に努力したが、やはり十分な集客ができなかった。</li> <li>・公演当日のスタッフの大半が共催先で募集したボランティア・アルバイト(高校生等)であったため、事前に当財団スタッフとの十分な打合せが出来ず、客席案内等の連携にスムーズさを欠いてしまった。</li> </ul>				
2次評価 (財団評議員)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元団体と連携して開催できたことは意義があると思う。こういうスタイルは今後も続けていくべき。</li> <li>・改めて演劇の素晴らしさや、それを見ることの大切さを感じることができた。この路線は続けていって欲しいし、それは財団にしかできない。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お盆中の期間中の開催に関しては今後、大きな課題として残されたと思われる。</li> <li>・劇団四季を招聘することも魅力であるが、文化人口の拡大のためには、公演内容も十分な考慮が必要であると思われる。</li> <li>・マスコミを充分利用し、職員自らが外に出てアピールしていく必要がある。</li> </ul>				
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共催者とはより連携を密にし、広報・販売促進の方法、スタッフ等の適正人数や配置箇所、指揮命令系統を徹底するなど、効果的に進められるよう十分な連携、調整を行う。</li> <li>・今後も、地域の団体や文化施設との連携や協働(共催)を推進していく。</li> <li>・企画段階で、開催日程、内容などよく検討する。</li> </ul>				